

# さくら並木

## 『一目千本桜』をイメージした ブランド化によるまちづくり

大河原町長 齋 清志

3月中の開花が始まった『おがわら桜まつり』でしたが、予定より少し早く4月15日を持って終了となりました。来場者数は、その年の天候によって左右されますが、インバウンド（訪日外国人旅行）客の大幅な増加を含め上々の入り込みとなったようです。

昨年度は、柴田町と連携して取り込んだ東北観光復興対策交付金の活用により、中学生から提案のあった『冬の桜のイルミネーション事業』やインバウンド関連のプロモーション等の積極的な事業展開を図ったところですが、また、町の単独事業として、桜の木の延命化に繋げる剪定作業等も実施しました。これらの取り組みが、『一目千本桜』の価値を改めて町民の皆さまの意識に訴えかけることになったのではないかと受け止めています。そして、本町の目指す町の将来像のなかでも『一目千本桜』をイメージしたブランド化によるまちづくりを、重点プロジェクトとして位置づけたいと思っています。

具体的には、現在策定中の『第6次長期総合計画』に示す、町の将来像やキャッチフレーズについて、先生から「始めに汁を食べるといいですよ。三角食べをしてください。」と教えてもらっています。

配膳や後片付けはまだできません。役割を分担し、友達と協力して自分で配膳や後片付けができるようになるようこれから練習です。

1年生が多くの人と関わりながら、元気に楽しく活動し、これからもたくさんのご縁を学んでいけるよう応援していきます。

今年度は、柴田町と連携して取り込んだ東北観光復興対策交付金の活用により、中学生から提案のあった『冬の桜のイルミネーション事業』やインバウンド関連のプロモーション等の積極的な事業展開を図ったところですが、また、町の単独事業として、桜の木の延命化に繋げる剪定作業等も実施しました。これらの取り組みが、『一目千本桜』の価値を改めて町民の皆さまの意識に訴えかけることになったのではないかと受け止めています。そして、本町の目指す町の将来像のなかでも『一目千本桜』をイメージしたブランド化によるまちづくりを、重点プロジェクトとして位置づけたいと思っています。

『人・まち・桜が咲き誇る、先進のまち』を本町の将来像にしたと考えています。

さらに、『町民憲章』に謳われている、くおらかでや、くたくましく未来へ続くなどの言葉を活用したキャッチフレーズとして、『おおらかに、たくましく未来へ続くおがわら』を提案しているところです。厳しさを増す社会環境のなかにあっても、『寛容と知性』や『豊かな心の広がり』の大切さをイメージさせることも合わせ期待したいものです。

東日本大震災から7年を越えて月日が流れましたが、福島原発事故の甚大な被害や心の傷はまだまだ残されたままです。追い打ちをかけるような自然災害や社会環境の変化が渦巻く現代にあっても、行政経営としてのまちづくりの方向性や理念を町民の皆さまと共有することの重要性を強く実感しています。全員参加のもと、町を未来へと繋ぐブランド化によるまちづくりに向け全力投球してまいります。

今年度の桜もまた大切な気づきを与えてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

(4月17日記)



# 学び舎通信

町内小中学校の情報を  
毎月お届けします

## 「給食おいしかったよ」

1年生が入学してきて1週間が過ぎました。毎日元気に活動しています。下校する時に、「今日も学校楽しかったよ。」「算数おもしろいよ。」「給食おいしかったよ。」と教えてくれました。写真は2回目の給食の様子です。子どもたちは給食時間を楽しみにして、みんな笑顔で食べています。よく食べる子どもたちなのでほとんど残しませ



# 大河原中学校

## 大河原の良さを伝えよう

桜ボランティア

大河原中学校では、毎年桜まつりの時期にゴミ拾い活動しながら、桜を見に来ている全国からのお客様に対して、明るく元気な挨拶をする「桜ボランティア」という活動を行っています。今年も4月11日と12日の2日間にわたって行いました。



今年桜の開花が早く、桜ボランティアに行った日は、桜はやや散り始めになっていましたが、多くのお客様に対して桜の美しさとともに中学生の明るく元気なあいさつも届けられました。

ボランティヤをやり遂げた生徒の表情は、みんな明るく、満足でいっぱいでした。



# 暗唱大好き 金中編

今年度もさつそく暗唱読本への取り組みがスタートしました。金ヶ瀬中学校では今年度も週に1回の暗唱の時間を設けて継続的に取り組んでいく計画です。3年生の教室では互いの暗唱を互いに聞きあつて確認したり、ひとり集中して暗唱に励んだりする姿が見られました。暗唱への取り組みは入学以来続けられており、3年生の使う暗唱読本にはそれなりの年季が入っています。それはそれぞれ



の生徒が暗唱に向き合ってきた歴史そのものといえます。全部を暗唱できた生徒は校長先生から表彰されることになっています。昨年度は残念ながら該当なしという結果でした。パーフェクトを達成する生徒が出るかどうか今年度の楽しみの一つです。

暗唱読本に向き合うことで、共に切磋琢磨しながら、「未来への財産」を積み上げていってほしいと願っています。

## 駅前図書館今月の新刊

## ま ち の 本 棚



一般▶ 絵手紙描き方のヒント  
上岡 ひろ子/著 【日貿出版社】

長年、絵手紙教室を主宰し、多くの人に手ほどきをしてきた著者が、季節の花や野菜、果物などを題材に、心に響く絵手紙の描き方をわかりやすく紹介する。線や文字の描き方、エッセーも収録。

児童▶ はじめてまなぶもちかたのえほん  
宮里 暁美/監修 常永 美弥/絵 【PHP出版社】

スプーンのもちかた、ボタンのかけかた、ぞうきんのしほりかた、ザリガニのもちかた、わかるかな？あさごはんから、がっこう、こうえん、いえのおてつだいで、いろいろなばめんでつかうどうぐの「もちかた」や「つかいかた」、どうぶつの「だきかた」などをイラストでしようかします。

小説▶ 浅見光彦と七人の探偵たち  
内田 康夫/[ほか]著 【論創社】

織江耕太郎、井上薫など、東京都北区主催の「北区内田康夫ミステリー文学賞」の受賞作家7人によるアンソロジー。浅見光彦が不可解なタイミングメッセージの謎に挑む、内田康夫の短編「地下鉄の鏡」も収録する。

絵本▶ アナゴたいそう  
うさやま みやこ/作 みうら あや/絵 【鈴木出版】

さあ、アナゴたいそう、はじまるよー。はんぶん すなこうまったチンアナゴたちが、みずのなかでゆらゆら、たいそう。みぎむいて、ひだりむいて、うへむいて、したむいて。それから、2ひきでハートのかたちをつくらたり、ぎゅっぎゅっぎゅっ、からまったり。あれあれあれー？からまったまま、ひよーんととびだしちゃって…